



悲観と樂觀の波紋を描く

工場問題 望みなきに非ずか

眞相追及の聲漸次高まる

小名濱町民二萬六千の注目の的というよりむしろ福島縣勢発展の原動力を示唆するビロン工場誘致問題は有力候補地、小名濱及原ノ町をめぐり、表裏二面作戦に秘策を練り、虚々実々の運動を展開し明暗のコースを辿つて一喜一憂して来たが遂に原ノ町に軍配が上つたかの如く新聞に報道され小名濱町民を失望させて来た。ことに町議の間にも悲観論と樂觀論の二派があり、樂觀論を支持する工場誘致委員長の小野務平氏、町議立花秀吉氏等は誘致運動を容易に断念せず飽迄、全力を傾注するという熱意を披瀝しているが、はからずも九月十六日付の磐城毎日新聞に掲載された小名濱通信の報道が俄然反響を呼び、ビロン工場誘致問題はいよいよ大衆批判の標的を呈し重大なる関心を惹起するに至つたので、本社は、工場誘致委員長小野務平氏、町議立花秀吉氏、社会党小名濱支部長小野幸次郎氏よりそれぞれの立場から卒直な意見を聴取することにした。

町民けだまされた

社会党小名濱支部長

小野幸次郎氏談

あれ程まで町民に期待をさせられビロン工場誘致の成功が報せられたが、いなしと全町議が宣傳し、理事者も小野務平氏も小名濱に誘致運動の立ち上りが遅かつたことと選ばれた人々が町民の信用を失墜した人であり、これを選んだ町議や理事者がこの人よりもその手腕能力に於て下である以上ビロン工場誘致の作戦が成功するとは信じられなかつた。吾々にはこれに憂へ區長会に於て町長にビロン工場の誘致方法を建築し、その方法はすてにやつておると言明したので後日隣村長に聞かれたら吾々のような凡人はそ

飽迄運動を繼續する

誘致委員長

小野務平氏談

九月十六日附磐城毎日小名濱通信欄を私は未だ読んで居ないが之を讀んでからかと言ふ「わが村に於ては、本件に就き委員が上京、大竹知事と立會の下に倉敷レヨン大原社長と面談の結果はビロン工場建設の計畫はあつた。市制實施についても二十二年の改選も十五位で當選したという奇蹟的なレコードを持つてゐる。性のない、堅實な支持者を持つてゐるのにも、青年時代の金澤さんは非凡の才能と秀才型の頭腦を持つ前途有望な官吏の卵であつたに相違ない、官界の振り出しは福島縣事務局の書記で二十三年の時だが、二十八才の時早くも福島縣紹介所長に異進、その後東京澁谷區役所の社会課長、福島縣、土木書記となり、藤原川改修工事事務主任として小名濱に着任したのが奇縁となつて定着、今では出生地若松が第二の故郷のようになつたというキツサシの大先輩であるが、

町議列傳

たかせ・かすみ

小名濱町會議員

金澤 勉氏

信念に生きる苦勞人



金澤 勉氏

小名濱は古來外來者のことをキツサシといつて馬鹿にする風習があつたといふ、このキツサシの一人で歴一本腕の地位を築き、二十年の町議補選に金も

落選組のトップだといふ人々の予想を裏切つて見事に當選。現町議中一方の旗頭として、町政に革新旋風を捲き起す中心人物として、その存在を無視することは出来な

の第一難関を突破して向學の念に燃えていた青年時代の金澤さんは非凡の才能と秀才型の頭腦を持つ前途有望な官吏の卵であつたに相違ない、官界の振り出しは福島縣事務局の書記で二十三年の時だが、二十八才の時早くも福島縣紹介所長に異進、その後東京澁谷區役所の社会課長、福島縣、土木書記となり、藤原川改修工事事務主任として小名濱に着任したのが奇縁となつて定着、今では出生地若松が第二の故郷のようになつたというキツサシの大先輩であるが、

う考へざるを得ない、隣接町村の政治力、地元の老練策士と、一人の縣議の力に依存したことが不成功の原因と思われ小名濱に人なき悲しむと同時にビロン工場誘致運動の結果に於て二三の人の宣傳の具に供され数十万圓の運動費が吹つたんだだけである之を要するに我々町民は爲政者に欺かれたのであ

に誘致すると言ふ事は可能と言ふ事も未定で確定しないが誘致が不ある、

断念するのけまだ早い

町會議員 立花秀吉氏談

小名濱を困却することは、不都合だ、しかるに政治工作により、原ノ町偏重という意圖を抱いて来たことは事前から、わかつて居たので、自分の意見として、直接大原社長に、おつつかつて行きたいと思つてゐた、われわれは公平な調査に基づき資料を提供しよう知事を全面的に協力すると言明した

分配金から内亂が起り分裂の危機に直面してゐるといふ、組合長は組合員(組合費を納入してゐるもの)三百名は必死になつて要求貫徹に努力したが、非組合員一〇〇名は高見の眼物をしていくせに平等の分配を要求する張、非組合員は組合員に七十圓、非組合員に三十圓とは言語道斷と反ばく、阿部助役は仲よく分配せよと條件をつけてゐたのに、いざこざとは心外だといふ僅か新生(無草)の一、二個分にも過ぎない金額ではないかと輕視してはならない、このよ

うな零細な金に目色の深みに抗する人々の中心は哀れというも思ふかなら、金が敵といふ人間にはクロポネ、鈍すの相互扶助論など、みみずのたわごとぐらにしか思わぬだらう

バクチで自動車を買ふ

平の鈴木市長さんが、競輪のテラ銭を見返しに百萬圓のシボレー常用車を購入しお偉ら方連中と乗り過して、悦に入つてゐるそ、だ、妻は病床に伏し、子は飢に泣いて一切頓着なく競輪に浮身をやつ禁治産者又は準禁治産者であらうと公金や集金の使込みであらうと、親父の金庫や店の賣上からチヨロまかした金であらうと、萬事OK、小さいバクチの虫さへ暴昌すれば大の虫は殺してもよいといふ天下御免のバクチで多数のふとこをシボつて、シボレーを買つては恐れ入つた眼といわねばならぬ

新聞展望

金が敵の自由勞組

平自由勞組がお盆手當ケットマネーより頂戴の名目で鈴木市長のボ

【いわき民報】

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

金に敵を倒す

